

# AFRICA

アフリカの54カ国



ekler/shutterstock.com



エチオピアとジブチをつなぐ鉄道は、約1世紀前にフランスが敷設。現在ここは鉄道博物館とカフェになっていて、誰でも訪れることができる。フランスの名残で、駅舎内の掲示はフランス語。現在はこの地区を中東のある国の資本で大開発計画中。



アディスアベバ。大都会の開発とその裏には、立ち退きを迫られる貧しい人々がいる。首都を一步出ると、牧歌的な風景が広がる。



# ステレオタイプではない アフリカの現実

すべてがケタ外れなアフリカ

2019年師走。私は3回目のアフリカ勤務で、エチオピアの首都アディスアベバに着任しました。最初のアフリカ勤務は1995年のコートジボワール。西アフリカのこの国は、フランスの植民地だった時代に象牙の積み出し港として栄えたことから、フランス語で「象牙海岸」を意味する「Côte d'Ivoire」が国名になりました。赴任前に先輩から「高所恐怖症でなければ機内の窓側に席を取って、サハラ砂漠を見ながら来たらいい」とアドバイスを受けて、そうしたのを覚えています。エールフランスの機体の小窓から覗くと、眼下には、燃えるような赤茶色をした大地が広がっていました。次は、2005年、東アフリカのエチオピアへの赴任でした。3000年の歴史を有し、アフリカで唯一植民地支配を受けなかった国です。よって、今回は2回目のエチオピア勤務となりました。仕事での駐在を含め、私はこれまで約30のアフリカの国々に渡航しました。日本人にしては多いほうかもしれませんが、アフリカ大陸には54の国があります。したがって、未踏の国がまだ20以上もあります。

すなわち、アフリカは広い。そして、深い。さらには、実に多様です。

この大陸の面積は約3037万km<sup>2</sup>で、地球の表面積の6%、陸地全体の20.4%を占めます。日本と比較すると、アフリカは日本の国土の80倍の大きさになります。米国、中国、インド、欧州主要国、日本を含むアジア・大洋州を合計したくらい、と言えば、その規模感が伝わるでしょうか。人口は13億人超で、これは世界人口の17%を占めます。つまり、世界の6人に1人はアフリカ系ということになります。日本は距離的にもアフリカから遠く、まだまだ実感が湧かないかもしれませんが、欧州の英国やフランスに行くと、アフリカ系と思われる人々をたくさん見かけます。2002年の日韓サッカー・ワールドカップの記念すべき初戦は、グループAのフランス対セネガルでした。セネガル・チームの選手のほとんどはフランスのクラブチームでプレーしていて、フランス・チームの選手のほとんどがアフリカ系だったことから、テレビ中継の解説者が「ユニフォームの色を除けば、選手の見分けがつかない」と述べていたのが印象的でした。

この頃のアフリカの人口は約9億人ですから、今日までの20年間で約1.5倍と、飛躍的に増加したことになります。別の統計では、1950年から2010年で、アフリカの人口は4.5倍以上増えたそうです。国連が報告する人口動態観測によれば、2050年には、北アフリカを除く、サハラ砂漠から南の、サブサハラ・アフリカと呼ばれる地域の人口が倍増すると言われています。今から30年も経たないうちに、世界人口の4人に1人はアフリカ系になると言われています。さら



図1 アフリカ連合 (AU) 本部



図2  
AU本部にあるハイレセラシエ  
1世の銅像

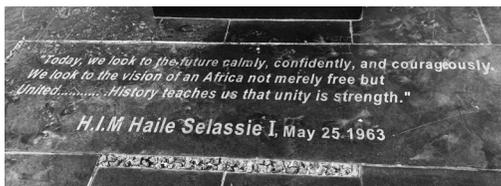


図3 足元の碑文  
「本日、我々は、静かに、自信を持って、勇気を持って未来に目を向けよう。単に自由だけではなく、統合したアフリカのビジョンに目を向けよう。統合は力であることを歴史は教えてくれる」と書かれている。

前者は、アルジェリア、エジプト、ガーナ、ギニア、リビア、マリ、モロッコ、の7カ国が中心となっており、最初の会合を1961年にモロッコのカサブランカで開催しました。そこには、エジプトのナセル大統領、ガーナのエンクルマ大統領といった著名な政治家がいました。後者は、リベリア、エチオピア、ナイジェリア、セネガル、カメルーンが中心となっており、同年に、リベリアのモンロビアで最初の会合を開催しました。中でも、エチオピアのハイレセラシエ皇帝、セネガルのサンゴー大統領といった署名人の参加は注目されました。

これら二つのグループの結成以前に、元仏領のコートジボワール、セネガル、コンゴなどが、ブラザビル・グループと呼ばれる別のグループを形成していたのですが、そのうちに前述の二つのグループに吸収されていきました。

エチオピアのハイレセラシエ皇帝は、これら二つのグループをアデイスアベバに招待して仲介を行いました。そして、この地にOAUが誕生することになったのです。最初のOAU総会の開会演説で、皇帝は、「この統一の会合が1000年続くことを願う」と述べました。時代は東西冷戦期。まだまだ多くの困難を抱えながら、アフリカは独立への戦いと、その後の国造りに奮闘していました。やがて、ベルリンの壁が崩壊し、さらに21世紀を迎え、アフリカは、新たな統合に向けて大きく舵を切り始めました。そして、アフリカの問題はアフリカ自身で解決することを宣言し、OAUを発展改組する形で2002年、「アフリカ連合(AU)」が設立されました(図1〜6)。



図11 アフリカ・ホールで改修実行委員たちが改修前に最後の記念撮影

## アフリカに初めて誕生した国連機関

整理されているはずでしたが、残念ながら、具体的な進捗があると言える状況には至りませんでした。それが難しい一つの理由は、RECs間で統合の度合いが異なる点です。地域統合の度合いを計るために、八つの基準から成る「多元的地域統合指標 (multi-dimensional regional integration index)」というものがあります。その基準とは、①人の移動の自由、②社会、③貿易、④金融、⑤通貨、⑥インフラ、⑦環境、⑧政治制度、です。RECsの中で統合の進捗度は、ECOWASが総合的にトップを走っています。例えば、移動の自由では、域内共通のパスポートと査証(VISA)免除があり、社会統合では、居住と設立の自由が認められています。貿易では、域内の自由貿易協定があります。通貨統合も、加盟15カ国のうち8カ国については以前から行われていて、現在は、ECOWAS共通通貨の導入に向けた議論も行われています。つまり、統合が進んだECOWASと、そうでもないRECsを同列に並べてAUとの作業分担を調整する、といっても無理な話なのです。

もう一つの難点として、AUが権限をどこまで放棄できるか、という疑問があります。多くの権限をRECsに委譲すると、「AUはシンクタンクになってしまわないか?」といったことを言う人もいます。それは大げさだとしても、AUが、全体調整とRECsへの支援に終始してしまうような存在になることを、AU委員会(AUC)は許さないでしょう。どんな組織にもあるような組織間の権限争いに決着がつかない場合には、最終的にはそれを裁定する上位機関があつて、そこが裁定を下すこととなります。しかし、AUにはいったいそれがあつてでしょうか?

国連アフリカ経済委員会 (United Nations Economic Commission for Africa : UNECA) という国連機関をご存知でしょうか?

アフリカ連合 (AU) 本部が所在するエチオピアのアディスアベバに、UNECAの本部があります。UNECAを含む複数の国連関係のオフィスが入った国連施設が市内中心部の広大な敷地にあります。

2022年10月14日、この国連ビルのアフリカ・ホールと呼ばれる会議場の改修に向けた起工式が執り行われました。私も日本を代表して出席しました。国連、AU、エチオピア、